

普通畑作物の新しい生産技術体系

(農試技術部・県北分場・県南分場)

1. 背景とねらい

本県の麦類、豆類、そば等いわゆる普通畑作物は特産品の原料等として県内外の加工業者及び消費団体等から根強い需要があり、供給量と品質の安定化が求められている。これら普通畑作物は、労働生産性が高く、土地利用上も輪作作物として不可欠であるが、耕地利用を考え輪作体系の確立をはかるためには、大規模輪作経営における新たな生産技術の体系化が必要であった。

このことから、新品種や機械・施設の汎用利用など最近の試験成果を盛り込んだ高品質・省力生産技術を総合し、新しい大規模生産技術体系を作成した。

2. 技術の内容

(1) 大規模生産技術体系

小麦、大豆、小豆、そば及びアマランサスについて、大規模生産技術体系を組み立てるとともに、これに対応した栽培基本技術をマニュアルとして作成した。

(詳細は全34ページの別添資料として各地域農業改良普及センターに配布済みである。)

各作物ごとに新たに盛り込まれた技術及び重点技術は次のとおりである。

作物名	規模 (ha)	核となる新しい技術及び重点技術(◎印)	作業時間 時間/ha
小麦	10	普通型コンバインによる早期収穫技術 除湿乾燥機による高品質乾燥技術 減数分裂期追肥による子実タンパク含量の向上 ◎生育診断による追肥技術と適期収穫	82.8
大豆	10	特定用途大豆の機械収穫を中心とする省力技術 ◎高品質で機械化に適する新品種「鈴の音」	普通60.9 小粒59.2
小豆	1	普通型コンバインによる収穫作業の省力化 品種に応じた高品質栽培技術(播種期等)	70.9
そば(秋)	10	ドリル播、普通型コンバイン収穫による省力化 循環式または除湿乾燥機による乾燥技術	35.2
アマランサス	1	優良系統「岩大系」及び「メキシコ」の導入 ◎播種、収穫の機械化による省力栽培技術	163.8
畑輪作	—	◎大規模機械化体系による畑輪作 輪作における普通型コンバインの導入面積	—

(2) 体系化にともなう技術の変更点

ア 大豆について、コンバイン収穫により発生した汚損粒を大豆クリーナーで調整できるが、使用にあたっては検査機関や実需者側と場面に応じて協議する。

イ 小麦については、「ナンブコムギ」について倒伏を避け、安定的に収量向上とタンパク含量の向上をはかるため、適正な播種量を設定した。

3. 指導上の留意事項

コンバイン収穫に関する詳細は、平成7年度指導上の参考事項「普通型コンバインによる普通畑作物の収穫技術」を参照すること。

4. 試験成績の概要

(1) 大豆クリーナーの使用について

処理方式	長 所	短 所
乾式	高能率（連続バッチ）で効率的。	処理後、長期間貯蔵すると加工適性低下。
湿式	加工適性の低下が乾式に比べ小さい。	しわ粒等が増加する場合がある。

(2) 小麦の播種量の変更について

品 種 名	播種量 (kg/10a)		目標とする株数・穂数 (/m ²)	
	ドリル播	全面全層播	株 数	穂 数
ナンブコムギ	4~6	8~10	75~120	450~480
コユキコムギ	7~9	8~10	150~180	580~650
キタカミコムギ	6~8	8~10	120~160	400~430